

第 3 回

高校生
未来
サミット
山

2021

未来への提言。

KOKOSEI MIRAI SUMMIT 2021

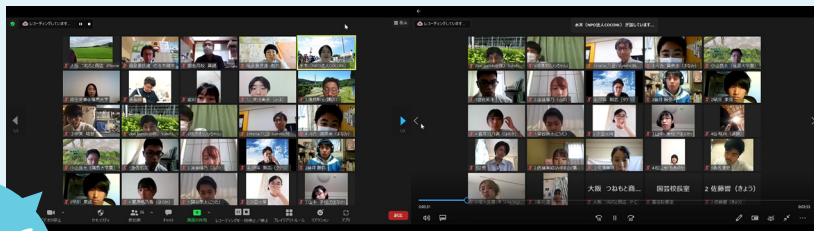


高校生
未来サミット
登山図(スケジュール)

ちょっと真剣に
未来を考えてみた

福島の原発事故以降
大勢の大人たちが、
未来をテーマに議論をした。
でもこれから五年後、十年後に
大人になるのは、いまの高校生。
彼らがどういうビジョンで
「未来」を捉えているのか。
この「高校生未来サミット」で
出しあった様々なアイディアは秀逸。
そして議論のレベルも高かった。
これからの彼らの活躍を、
期待せずにはいられない！





オンラインで
参加した
高校生たち

25年前に市民・農家の募金で作られた食品分析センターで働いています。企業や国が測定しないものでも測定し、科学の力で市民に正しい情報を提供してきました。私たちはいつでも手軽に食品を購入することができ、安価で効率的に製造されることは重要ですが、その裏で誰かを搾取したり、健康や環境に負荷をかけていないでしょうか。皆さんが身に着けた知識や技術を誰のために使うかを考えることが大事です。

6月5日

農民連食品分析センター

八田純人さん



放牧、再生しながら獣害の軽減と、炭素を農地貯留するモデル作りにも取り組んでいます。今の若い世代の皆さんは、自分で考え行動できるので期待しています。

震災後に福島へ移住し、避難区域で放されていた牛を保護してきました。牛の力を借りて耕作放棄地だった大熊町の農地7haを再生しています。被災地の復興に留まらず、中山間地の耕作放棄地に牛を

谷さつきさん



6月19日

モーモーガーデン



4月24日

喜多方市 ひぐらし農園

浅見彰宏さん



稲作1ha、小麦・大豆・蕎麦50a、野菜50a、採卵鶏30羽、豚7頭を飼育する有畜複合有機農家をしています。地域資源の循環と土づくり、消費者へ直接農畜産物を届けています。私の地区では水田の用水路6kmの整備をボランティアの皆さん40名が支援してくれました。震災直後の用水路整備にも多くの皆さんが来てくれました。住民だけでは地域維持が難しくても、新しいテーマ型コミュニティが一つの解決になる可能性があります。



太陽光発電所は日本中で増えています。太陽光発電の下スペースで農業を行う営農型発電を今年から開始し、蕎麦やシャインマスカットを栽培する予定です。

5月8日

二本松営農ソーラー株式会社

近藤恵さん



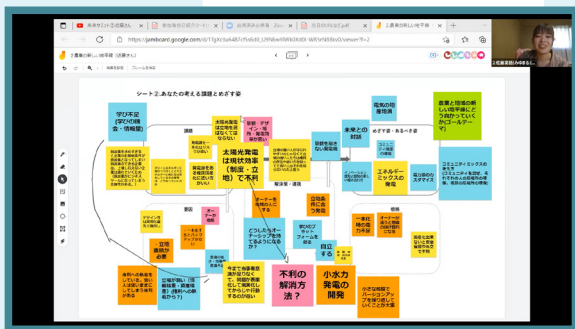
農業と太陽光発電の複合経営をしています。太陽光発電の下スペースで農業を行う営農型発電を今年から開始し、蕎麦やシャインマスカットを栽培する予定です。

オンライン未来サミット

8月28日

1 班

放射線が福島 of 農業にどんな影響を与えているか、農業への興味をどうやってもってもらうかを話し合った。学校の授業で農業に触れる機会をもっと増やしてはどうかなどの解決策が出された。メンバーの話を聞く中で新しい発想や、自分の意見を深めることができた。



小さなバージョンアップを繰り返す

太陽光発電が普及しているけど、地域外からの参入、企業と住民の情報量の格差、景観維持の価値観の違いなどの課題があることが分かった。企業や地域の垣根を越えたネットワーク作り、話し合い、学び合いが解決に役立つのではないか。知る、学ぶことで当事者意識が生まれ、解決の道筋を考えることができる。小さなバージョンアップを繰り返すことで市民の意識や行動の変化に貢献できる。

自分の体に入るものだから知りたい

食の安全について知る機会が少ない、添加物が多いことを課題だと思っていない、知ったら気持ち悪い、自分の体に入るものだからしっかり知る必要があるなどの意見が出された。市民が知りたいと行動することで、製造者に商品動画を作ってもらう、学校の授業で食品表示について学べば、家庭でも話題になるはず、SNSで情報を得やすくするなどの解決策が出された。

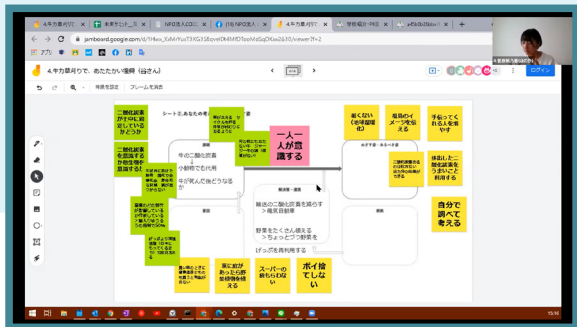
3
班

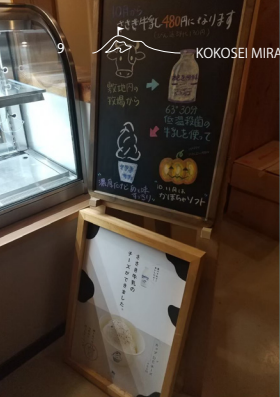
家庭菜園で野菜を作り、炭素を土に貯めよう

大熊町での牛の放牧、放棄地再生、炭素貯留などを学び、環境との共生について考えた。牛のげっぶの温暖化への影響は？という質問に対して谷さんからは、適正な放牧や農地活用をすれば大きな問題ではないことや、今までの畜産の方法を変えていくことで解決できることも学んだ。もつと家庭菜園を増やして、野菜の生産と炭素を貯めようという解決策も出された。



4班





ささき牧場カフェ

福島市



視察の合間にホッとするカフェで、地元のわさびや産品を活かしたソフトクリームをいただく。小さな牧場の取組だが、持続可能な産業を作っている。



玄米全袋検査

相馬市 浜通り農産物供給センター



原発事故の翌年から続く玄米全袋検査を見学。バスの外の風景からは震災の影響は見えないが、農産物の安全を確認するために努力が今も続けられている。



食の安全についてのドキュメンタリーを見て、グループ毎に感想や意見を出し合う。一日の疲れは温泉で癒した。



グループワーク



土湯温泉ゆもり



震災遺構 請戸小学校

浪江町

海沿いの浪江町請戸小学校は、10年前の津波被害をそのまま記録し、伝える施設になっている。黒板には地元の方の復興への願いや祈りが記されている。

小水力発電

土湯温泉

震災時の停電を経験した地元市民が「自分たちの使う電気を作ろう」と立ち上げた小水力発電を見学。水の落差を活かし、今日使っていた電気に利用されていた。



アグロエコロジー試験圃場

あだたら食農 Schoolfarm



二本松市のアグロエコロジー試験圃場は有機栽培区、有機不耕起栽培区で食べる人と作る人が新しい農業に取り組んでいる。「ここは失敗を共有し成長する場所」でもあります。



ソーラーシェアリング

二本松市営農ソーラー



太陽光発電の下でシャインマスカットや蕎麦、えごまを栽培する「ソーラーシェアリング」を見学。影の影響は？一番下でイチゴも作れます？



福島大学食農学類

福島市

福島大学食農学類の最新鋭測定機材見学では、高校での授業ともリンクするので食いつきが違うー福島大学に来るかも。最後のワークショップはみんな話しが止まらず、時間が足りなかった。



感想文

高校生未来サミットを終えて



- 福島で暮らす私にとって初めて見たものや聞いたことが多く、大変勉強になった。大阪の高校生の率直な意見を聞き、福島県内に住んでいる私にはわからない県外から見た福島県について知ることができて良かった。福島県に住んでいても県内の被災地を訪れることはほとんどない。自ら現地を訪れて、実際に当事者の人から話を聞き、事実と向き合うことが大切であるとわかった。
- 米の線量による危険がないということを確認するために、QRコードを貼るなど工夫があつて凄いなと思ったが、まだそれが無いと安心して買うことができないのが残念に思った。
- 今までテレビの中に映っていた世界を目の前にすると、言葉が失った場面も多かった。それと同時に自然災害とは何なのか、そして自然の強さというものについて改めて実感させられた。



- 請戸小学校の黒板に応援メッセージが寄せられていたけど、少し文句などが書いてあり、すべてをなくすのは不可能でも、少なくともできるよう助けや災害後の対策などができるとういし、自らも行つていきたいと思った。
- 汚染や洪水によって多くの人が苦しんでいることをわかって、やすく教えていただき、自分たちにもできることがあるということを知った。
- 福島は宮城や岩手と違って、ゼロからではなくマイナスからのスタートと言っていたのが印象に残った。
- 現地がまだ復活できていない所を見ると、一気に他人事じゃないと実感がわいた。現地の大学生も福島の魅力を自分たちに伝えようとしてくれていて、うれしかった。
- 福島の問題について学んでいると思つていただけ、日本全体の問題だと思つた。福島に対する考えが変わつた。学校で授業を受けているより、実際に行つた方がすぐ考えさせられることがある、勉強になった。福島が農業や発電に対しても、どれだけ試行錯誤しているかを取り上げてほしいと思つた。じゃないと福島イメージが変わらないんじゃないかと思つた。



● 玄米の検査場で、安全だと証明したものを売りたいと言っていたので、事故を乗り越えしっかりと前へ進んでいるのだと思った。事故を忘れるのではなく、しっかりと教訓にしようとしていると思った。

● 10年前に災害があつて、被害を受けたにも関わらずここまで復旧していることに驚き、現地の人たちや震災の復旧に携わった人たちが頑張った結果だと思つた。農業にも地域にも違つた特色があつて、色んな繋がりがあることを知れて良かった。

● あだたら食農スクール
ファームでは、雑草が生えた

まま作物の栽培をしていて、授業では除草しないと怒られるからびつくりした。また、日本人の1・5%しか農業をしていないという話を聞き、日本の農業の深刻さが分かり、農業を発展させなければまずいと思った。福島の米の価値が2011年からドンと下がり、他県の米と比べると価格が低いままなので、現地での体験を色々な人に伝えていけたら良いと思った。

● 自分の目で現地を見た方が考える時間や影響力がとて
 大きいので、現地に行くのはとて
 も良いことだと思った。

● 米の放射能検査や高速道路を走っていると、今の放射線量が分かるなど、数値化され情報が見る形があつて、風評被害や福島島のイメージがない人にとつて安心できる環境になつていふと思つた。お弁当や飲み物、ソフトクリームなど福島県の食べ物はとてもおいしかった。食や福島に住んでいる人の優しさ、気さくさ、バスの中から見た景色など福島県の良さを知り、満喫することができた。私たちは、知らされないことが多すぎるので自分から感心を持ち、学んでいく必要がある。

● 最近農業について授業を受けた。その時は、説明に従って使えば害はないと教えられたのに今回はその逆で言われたので

どうしたらいいのか考えた。

● 請戸小学校で、震災がど
ういうものか知ることができ
た。他に震災などが起こった
地域にボランティアに行きた
いと思った。

● 米の放射能検査に多くのコストを使っても安全性を証明しなければ、福島県産の農作物を消費者の方に買ってもらうことができない状況になってしまっている現状に危機感を覚えた。福島県産への先入観や悪いイメージで農作物が売れなくなったり、他県と比べ市場価格を下げないと売れなかったり、どんどん農業に携わっていく方が減り続けていくのではないかと考えた。



